

■ カラーリングについて

まず最初に色彩についてお話ししたい。鮮やかなビビットなカラーが重要である。それはインテリアの総てのマーケット即ち若向けからオーソドックスな分野でも同じようなことがいえる。世界的な感覚で70年代ポップの影響とリサイクル的な関係の両者が混じりあったモノとしてとらえられるし、例えばカリブ海などにインスピレーションを得たエスニックな雰囲気タッチをデザインにとり入れたもの、そしてもう一つははっきりと現われている傾向である円やかさ、非常に女性的な丸味を帯びたカーブ、そしてソフトな色(ソフトテックス)の傾向が、総ての社会学者は21世紀に向けて大変女性の力が強くなるであろうと予測、女性の地位が高まるであろうことからこのようなカーブを帯びた円やかなラインが非常に重視されると思われる。そして色、はっきりとした鮮やかな色の重要性が高まっている。ジュニア向けだけでなくクラシックな家具においても、古い家具、椅子、ソファとかクラシックな昔ながらの型の家具も全く鮮やかな色で甦らせる。これは、ヨーロッパで、はっきり現われている傾向である。では1998年の1月の見本市に向けてどのような製品が仕上がっていくのが、重要である。もう5年間そのような衝撃的な色が続いたことからそろそろ落ち着いた静けさも必要となってきている。そして、そのためには白、ホワイトが重要で、ただ白には色々な表現がある。第1はクラシック、トラディショナルな白、又、詩情あふれるポエティックな女性的なフェミニンな白などがある。ヨーロッパにおける消費者向けの調査が出てきていることは、皆さん過去を追求している、つまりルーツを求めている。今までどうであったかということを追求しているということが解ってきていて、21世紀という更なる近代への新しい、そういった過去に対する眼差しが大変重要になってきている。また販売されているものを見ても、大変にクラシックな、そしてトラディショナルなものが大変売れている。平和、安らぎを求めているのである。そして石灰のような色を帯びた白、シルバー、銀、あるいは木、ただその木は今までエコロジーが全盛であった時、明るめの色が使われていたが、今回はもう少しダークカラーウッドが組み合わされている。そして家具はトラディショナルなホルム、但しもう1度色を塗り直されることになるし、18世紀からのインスピレーションを得た家具が出てくると思う。そして椅子のフォルムも非常にトラディショナルなもの、南フランスの田舎などで見られるような昔風なスタイルの椅子、それを白に塗り直したようなもの。ここでもテキスタイルが非常に重要になってくる。椅子の上カバーするために生布を結ぶ、テーブルクロスを使っても椅子カバーにもなる。その他にも昔使った手編みのマクラメ、あるいはカニ編みをベッドカバー等に使い続ける。カーテンのヒニションも結びや飾り結びを付けたり非常に入念なヒニションを付けていく。そして薄手のカーテンには、非常に透明感のあるオパール効果のようなスケ感のあるものを使う。テーブルウェアも非常にイレギュラーで、職人仕上げのようなアーティメタルな手作り感覚の雰囲気を出す。手ざわりも重要なものになっている。非常にマットな光沢の無い、卵のカラーの様な手ざわりな

どが追求される。これも今まで続いているナチュラル思考のトレンドなのですが、今までより、より、ソフィテイスケットに仕上げている。そして昔の田舎風スタイルの回帰が見られる。もう一つ白を表現していく方法として、より若向けのモダンなコンテンポラリーなホワイトを使っていくこと。これは大変に現代的なコンテンポラリーなスタイルである。1970年代の家具は円やかでコンテンポラリーな現代的なフォルム、ここでもホワイトとシルバークの組み合わせが出来る。そして真珠のような虹色効果を様々に使っていく。また、パール効果などのような光をテキスタイルだけでなくオブジェにも使っていく。ここではアルミがブラッシュ加工され白っぽく仕上げられている。カーブしたフォルムこれら皆、非常にソフトな感覚でアビリシブルな攻撃性は排除している。照明器具は卵、エッグにインスピレーションを与えることが出来る。あるいは、牛乳のしずくが落ちていく、それを思い起こさせたり、乳白色の皮のようなものを思い起こさせるようになっている。テキスタイルは、モダンなもの、合成繊維やマイクロファイバーが重要である。そしてインテリジェントファブリック、特殊な加工をしてあるもの、抗菌性のもの、ストレッチ性のもの、高度な技術を駆使したファブリックスが重要になる。又、手ざわりはピーチスキンのようなもの、穴をあけた仕上げもある。また手ざわりは大変ソフトなサテンのようなもの、場合によってはベルベットのようなもの。消費者は、非常に安心した雰囲気を求めている。母親の体内に居るように安心しきった雰囲気を求めているので、アビリシブルな感覚は総て取り除かなければならない。

ただ白だけでなく、白プラス何かというコンビネーションも考えられる。ビビットなカラーがここでも重要。とりわけ、サラダ菜のようなグリーンとか、エコロジ的な様々なグリーンが重要である。例えば1枚のテキスタイルをつくり上げる時、80%をグリーンで20%を白で、というような組み合わせをする。雑貨をつくる時は、キッチンそのものは全く白い世界。しかし、そこに置く様々な道具、雑貨は総べてグリーンでというような組み合わせが考えられる。そして家具の方は、ナチュラルに明るい感じで。もう1つ重要な組み合わせ、ホワイトとチョコレート色、これはまだ新しいハーモニーであるが今のところ見本市ではそれほど見られない。ほとんど黒に近い大変ダークなエキゾチックな木材を使っている。これは、先ほど紹介した非常にフェミニンなトレンドとは全く正反対のトレンドで男性的なそしてエレガントなトレンドである。トラディショナルな家具に対してテキスタイルの方も非常にダークカラーのカシミア、ベルベット仕立てで作ることが考えられる。素材は大変ソフトな手ざわりなもの、このようなカラーを使っていく場合は、床板あるいは家具は深みのあるダークカラーにするが、壁は卵のカラーのように明るい色にする。

